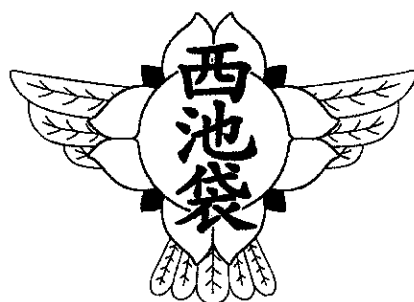


令和7年度

各教科 年間計画



豊島区立西池袋中学校

第一学年

- 1 国語
- 2 社会
- 3 数学
- 4 理科
- 5 音楽
- 6 美術
- 7 保健体育
- 8 技術・家庭科
- 9 外国語

評価・評定について

1 絶対評価（目標に準拠した評価）

一人一人が目標にどれだけ近づいたか（実現状況）（達成値）を総括的に評価し、「5・4・3・2・1」の5段階で表す。

2 観点別評価

学習指導要領の目標の実施状況（達成値）を観点ごとにA・B・Cの3段階で表す。
昨年度から、評価の観点は以下の3観点に変更。

【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】

3 評定

観点別評価の結果から、学習の状況（達成値）を総括的に評価したもので「5・4・3・2・1」の5段階で表す。

4 観点別学習状況の評価と評定の関係

観点別学習状況の評価			評 定		
十分満足できる	A	80%以上	特に高い程度のもの	5	90%以上
			十分満足できる	4	80%以上
おおむね満足できる	B	50%以上	おおむね満足できる	3	50%以上
努力を要する	C	50%未満	努力を要する	2	20%以上
			一層努力を要する	1	20%未満

「B」や「3」は、集団の中の中位ににいるということではなく、それぞれの学習結果が学習指導要領の目標を「おおむね満足できる」と判断できたことになる。

教科や単元により、以下のように観点ごとに割合を変化させて評定を算出することもある。

評価の観点	教科A	教科B	教科C
知識・技能	40%程度	30%程度	34%程度
思考・判断・表現	30%程度	30%程度	33%程度
主体的に学習に取り組む態度	30%程度	40%程度	33%程度

学習する単元によって、観点ごとの評価の割合が異なる
状況によって、計画より単元の実施時期を変更する可能性がある

「A・B・C」の数により、機械的に「5・4・3・2・1」の5段階の評定を出すことはしない。

ただし、次ページの観点別評価の場合は、右の評定になる。

3 観点の評価			評 定	3 観点の評価			評 定
A	A	A	5または4	A	C	C	3または2
A	A	B	5または4または3	B	B	B	3
A	A	C	4または3	B	B	C	3または2
A	B	B	4または3	B	C	C	3または2または1
A	B	C	3または2	C	C	C	2または1

5 評価の項目の例

授業観察、課題への取り組み方、ワークシート、レポート、ノート、作品、技能テスト、定期考査などの各種テスト等である。教科や単元によって異なる。

6 評価・評定の例

観点(割合)	満点	本人の得点	本人の達成値	観点別	本人の達成値	評定
知識・技能 (40%)	250	200	80%	A	*77.24 %	3
思考・判断・表現力 (30%)	120	85	70.8%	B		
主体的に学習に 取り組む態度(30%)	100	80	80%	A		

※ 【本人の達成値】は各観点の達成値に割合を掛け合わせ、その後の値を足し合わせることで算出する。

$$\text{【本人の達成値】} = \boxed{\text{知}} (80 \times 0.4) + \boxed{\text{思}} (70.8 \times 0.3) + \boxed{\text{態}} (80 \times 0.3)$$

$$= 32 + 21.24 + 24 = 77.24$$

7 定期考査の実施時期（年間行事予定に記載）

8 学期ごとの評価の期間

1 学期	2 学期	学 年
4 月～7 月	<u>4 月～12 月</u>	4 月～3 月

評定は上記のように3回出す。

また教科により、単元や作品の製作状況によって、評価の対象期間が広がることもある。

<年間指導計画>

学期	単元名	主な学習活動	評価		
			知	思	態
1 学期	・朝のリレー	・通読、好きな表現の交流、特徴を生かした音読。	○		◎
	・野原はうたう	・音読、音読の工夫の話し合い、グループ発表。	○		◎
	・声を届ける書き留める言葉を調べる	・発表の仕方、ノートの取り方、辞書の使い方。	◎	○	○
	・はじまりの風	・作品理解、語句漢字調べ、場面展開と心情理解、感想記入と交流。	○	◎	○
	・季節のしおり 春	・桜にまつわる詩、短歌、俳句と言語文化の理解。	○	◎	
	・情報を聞き取り、要点を伝える	・聞き取りメモ実践、効果的メモの理解、要点と5W1Hやキーワードの意識。	◎	○	
			◎		○
	・音声の仕組みや働き	・母音と子音、アクセントやイントネーションの理解と伝え方の工夫。	◎	○	
	・話の構成、スピーチ	・材料選択、構成の工夫、伝えたいことが届くスピーチ。魅力的なスピーチについて。	○	◎	○
	・漢字の組み立てと部首	・部首理解、漢和辞典使用、課題作業。	○		◎
	・ダイコンは大きな根?	・段落の役割、構成と趣旨、筆者の主張の把握。	○	◎	
	・ちょっと立ち止まって	・文章構成の理解と内容把握、要旨のまとめ。	○	◎	○
	・情報整理レッスン	・情報の比較整理分類方法の確かめと学習。	◎		○
	・情報を整理して書こう わかりやすく説明する	・題材決め、情報整理、マッピング、構成、文章へのまとめ、作品交流。	○	◎	○
	・指示する語句と接続する語句	・指示語、接続語の理解。	◎		
	・空の詩三編、詩の創作教室	・音読、感想交流、詩作。	○	◎	○
	・様々な表現技法	・比喩、反復、倒置、体言止め等表現技法の理解。	◎		
	・比喩で広がる言葉の世界	・比喩の定義と効果の理解、文章の中心と付加の読み分け。		◎	○
	・文法 言葉の単位	・文、段落、文節、単語の理解。演習問題。	◎		○
	・心情を表す言葉	・国語辞典と類語辞典使用、紹介文、語彙を増やす。	◎		○
2 学期	・情報収集の達人になろう	・情報の読み取りと引用、著作権の理解、図書館利用。	○	◎	○
	・読書を楽しむ	・読書記録、ポップ作成、本の紹介。	○	◎	○
	・本の中の中学生	・3編の作品内容把握、学校図書館利用、自分の考えの形成。		◎	○
	・季節のしおり 夏	・短歌・俳句の理解、他の夏の詩の鑑賞。	◎	○	○
	・書写：道具・姿勢・字形	・筆記具や姿勢の基礎基本の理解、漢字の字形。	◎		○
	・大人になれなかった弟たちに	・登場人物の心情把握、題名の意味、作者の意図。	○	◎	○
	・星の花が降るころに	・場面構成理解、情景と心情描写解釈、表現技巧。	○	◎	○
	・項目を立て案内文を書こう	・身の回りの案内文、情報整理、項目の順序と表現。	○	◎	
	・推敲 読み手の立場に立つ	・読み手の立場に立った推敲、情報の確認。		◎	○
	・言葉 方言と共通語	・方言と共通語の理解、両言語の役割と特徴理解。	○		◎
	・聞き上手になろう	・質問の仕方の工夫、対話練習。	○	◎	○
	・漢字の音訓	・音訓の歴史と性質の理解、漢和辞典の利用と問題。	◎		○
	・「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ	・原因結果、意見と根拠、情報と情報の関係の理解。	◎	◎	
	・思考のレッスン1 意見と根拠	・意見と根拠の読み分け、問題演習。	○	◎	
	・根拠を明確にして書こう	・要約、キーワード、根拠を明確にした文章。資料の引用。	○	◎	○

2 学 期	・漢字に親しもう ・文法 言葉の関係 ・聴きひたる 大阿蘇 ・季節のしおり 秋 ・いろは歌 ・蓬萊の玉の枝「竹取物語」 ・思考のレッスン2原因と結果 ・資料を引用してレポートを書く ・漢字に親しもう ・進め方について考えよう ・季節のしおり 冬 ・話題や展開を捉えて話し合おう ・読書案内 研究の現場によこそ ・書写 楷書の筆遣い	・既習漢字の理解と復習。 ・単語の類別、連文節、分の組み立て理解。 ・語句の意味確認、言葉の響きやリズムを味わう。 ・月と秋の情景の伝統的言語文化の理解、語感磨き。 ・リズムの味わいと音読、今様の理解。 ・歴史的仮名遣い、現代文との違い、音読、内容把握。 ・話の筋道の理解、原因結果の捉え方の必要性確認。 ・課題と調査、仮説と証明、データ選択、レポート作成。 ・既習漢字の理解と復習。新出漢字の確認。 ・情報の関係理解、話し合いと考えるまとめ。 ・冬の動植物や情景の詩や短歌の味わい。 ・根拠に基づいた意見のまとめと話し合い。 ・文章の内容理解と感想の交流。読書感想文の書き方。 ・毛筆練習、書き初め練習、楷書と行書の違い、ひらがな。	◎		
			◎		○
3 学 期	・少年の日の思い出 ・文法 単語の性質 ・二十歳になった日 ・体験を基に随筆を書く ・漢字の成り立ち ・一年間の学びを振り返ろう ・ぼくがここに ・国語の力試し - 読む、話す、聞く、書く ・書写 名文を書く、点画の変化	・語句の意味、作品展開の気づき、登場人物の心情変化の捉え。 ・単語の分類、品詞、体言と用言、自立語、付属語、活用の有無 ・表現の工夫、情感のある表現に着目、筆者の考えについての話し合い、体験の伝え合い。 ・情景や心情を表す言葉の適切な選択と使用。 ・象形、指事、会意、形声の理解、漢和辞典使用。 ・集めた情報の整理、構成の工夫、フリップ作成、グループ内発表。 ・表現技法の理解、詩の内容把握、作者の思いのグループ討論。 ・問題演習、根拠を明確にした意見文、読み手を意識した推敲。 ・行書の基礎的な点画の書き方の理解。	○	◎	○
			◎		○
			○	◎	○
			○	◎	○
			○	◎	○
			◎		○
			○	◎	○
			◎	○	○
			◎	○	○

<評価の観点と割合>

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけているとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、筋道立てて考える力や、豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものに行っている。	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを確かなものにしたたりしながら、言葉がもつ価値に気づこうとしているとともに、進んで読書をし、言葉を適切に使用している。
30～40%	30～40%	30～40%

<令和7年度に関する特記事項>

・単元によって評価の割合は異なる。

学期	単元名	主な学習活動	評価		
			知	思	態
1 学期	【地理】 ・世界の姿 ・日本の姿 ・人々の生活と環境 【歴史】 ・歴史の流れと時代区分 ・人類の登場から文明の発生へ ・東アジアの中の日本 ・中国にならった国家づくり	・地球をながめて ・世界の中での日本の位置、日本の領域 ・世界のさまざまな生活と環境 ・世界各地の衣食住とその変化 ・年代の表し方と時代区分 ・人類がたどった進化 ・世界の古代文明や宗教のおこり ・縄文から弥生への変化 ・鉄から見えるヤマト王権 ・ヤマト王権と仏教伝来 ・律令国家を目指して、律令国家での暮らし ・大陸の影響を受けた天平文化	◎	◎	◎
2 学期	【地理】 ・世界の諸地域 【歴史】 ・展開する天皇・貴族の政治 ・武士の世の始まり ・武家政権の内と外	・アジア州の自然環境・農業・文化と経済発展 ・中国、韓国、東南アジア、南アジア、中央アジア、西アジア ・ヨーロッパ州の自然環境文化の共通性と多様性 ・EUの成り立ちとその影響、ロシア連邦 ・アフリカ州の自然環境・歴史と文化・経済 ・北アメリカ州の自然環境・多様な民族構成・農業・工業 ・権力を握った貴族たち、摂関政治 ・唐風から国風へ変わる文化 ・武士団の発生、朝廷と結びつく武士 ・鎌倉幕府の成立、鎌倉文化 ・海を越えて迫る元軍	◎	◎	◎
3 学期	【地理】 ・世界の諸地域 ・身近な地域調査 【歴史】 ・人々の結びつきが強まる社会 ・大航海によって結びつく世界	・南アメリカ州の自然環境 ・南アメリカ州の多様な民族と文化・農業・工業 ・オセアニア州の自然環境・移民の歴史と多文化社会・産業 ・地域調査の方法、地形図の読み取り ・南北朝の内乱と室町幕府 ・東アジアの交易と倭寇 ・技術の発達と様々な職業、団結する民衆 ・全国に広がる下剋上 ・庶民に広がる室町文化 ・鎌倉・室町文化 ・ヨーロッパの変革（ルネサンス・宗教改革） ・大航海時代の幕開け ・東アジアの貿易と南蛮人	◎	◎	◎

<評価の観点と割合>

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
【地理】 ・わが国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解するとともに、調査や諸資料から地理に関する様な情報を効果的に調べまとめている。 ・人々の生活はその生活が営まれる場所の自然及び社会的条件から影響を受けたり、その場所の自然及び社会的条件に影響を与えたりすることを理解している。 【歴史】 ・我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。	【地理】 ・地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互作用、地域などに注目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。 ・世界各地における人々の生活の特色やその変容の理由を、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察し、表現している。 【歴史】 ・歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。	【地理】 ・日本や世界の地域に関わる諸事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追求、解決しようとしている。 ・世界各地の人々の生活と環境について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 【歴史】 ・歴史に関わる諸事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
35%	35%	30%

<令和7年度に関する特記事項>

- ・生徒の興味関心を引く実物教材や写真資料、新聞資料等を活用するとともに、授業プリントを工夫し、必要な情報を的確に処理し、定着できるように授業作りを行う。
- ・単元終了時に確認テストを行い、基本的知識の定着を図る。
- ・学んだ知識を基にグループ学習や発表学習等も取り入れ、思考力や表現力の向上に努める。
- ・定期考査にて時事問題を取り入れ、世の中で起きている事件・事象に興味関心を持たせる指導を行う。

学期	単元名	主な学習活動	評価		
			知	思	態
1 学期	0. 算数から数学へ ・整数の性質	・整数の性質（自然数、素因数分解）	◎	◎	◎
	1. 正負の数 ・正負の数 ・加法と減法 ・乗法と除法 ・正負の数の利用	・符号の付いた数、数の大小 ・加法、減法、加法と減法の混じった計算 ・乗法、除法、四則の混じった計算、数の範囲と四則 ・正負の数の利用（平均の求め方を工夫する）	◎ ◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎ ◎
	2. 文字と式 ・文字を使った式 ・文字式の計算 ・文字式の利用	・文字の使用、文字を使った式の表し方、代入と式の値 ・1次式の計算（項と係数、1次式の加法・減法、1次式と数の乗法・除法、1次式のいろいろな計算） ・数の表し方、数量の間の関係の表し方（等式、不等式）	◎ ◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎ ◎
	3. 方程式 ・方程式とその解き方	・方程式とその解、方程式の解き方、いろいろな方程式	◎	◎	◎
	・1次方程式の利用	・1次方程式の利用、比例式の利用	◎	◎	◎
	4. 比例と反比例 ・関数と比例・反比例 ・比例の性質と調べ方 ・反比例の性質と調べ方 ・比例と反比例の利用	・関数、比例と反比例 ・比例の表と式、比例のグラフ、比例の表、式、グラフ ・反比例の表と式、反比例のグラフ、反比例の表、式、グラフ ・比例と反比例の利用	◎ ◎ ◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎ ◎ ◎
	5. 平面図形 ・図形の移動 ・基本の作図 ・おうぎ形	・図形の移動（平行移動、回転移動、対称移動） ・作図のしかた、基本の作図、いろいろな作図 ・おうぎ形（おうぎ形の中心角、弧の長さ、面積）	◎ ◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎ ◎

3 学 期	6. 空間図形				
	・いろいろな立体	・いろいろな立体（多面体，角錐，角柱，円錐，円柱）	◎	◎	◎
	・立体の見方と調べ方	・直線や平面の位置関係，面の動き，立体の展開図，立体の投影図	◎	◎	◎
	・立体の体積と表面積	・体積，表面積，球の体積と表面積	◎	◎	◎
	7. データの分析と活用				
	・データの整理と分析	・データの分布の見方，データの分布の特徴の表し方	◎	◎	◎
	・データの活用	・データの活用	◎	◎	◎
	・ことがらの起こりやすさ	・起こりやすさの表し方	◎	◎	◎

<評価の観点と割合>

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力，数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え，数学を生活や学習に生かそうとする態度，問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。
40％程度	30％程度	30％程度

<令和7年度に関する特記事項>

- ・学習する単位によって観点ごとの評価の割合に変化がある。
- ・少人数・習熟度別指導を実施し、定期考査後にクラスの変更を行う。

<年間指導計画>

学期	単元名	主な学習活動	評価		
			知	思	態
1 学期	単元1 いろいろな生物とその 共通点	① 生物の観察 (身近な生物の観察)	◎	◎	○
	第1章 生物の観察と分類の しかた	② 生物の特徴と分類 (さまざまな生物の分類)	◎	◎	○
	第2章 植物の分類	① 花のつくり (植物の花のつくり) ② 果実をつくらない花 ③ 葉や根のつくり (植物の葉や根の観察) ④ 種子をつくらない植物 ⑤ さまざまな植物の分類	◎ ◎ ◎ ◎ ◎	◎ ○ ◎ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
	第3章 動物の分類	① 身近な植物の分類 (動物のからだのつくり) ② 脊椎動物 ③ 無脊椎動物 ④ 動物の分類表の作成	◎ ◎ ◎ ◎	◎ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
	単元2 身のまわりの物質と その分類 第1章 身のまわりの物質と その性質	① 物の調べ方 ② 金属と非金属 (金属と非金属のちがい) ③ さまざまな金属の見分け方 (密度による金属の区別) ④ 白い粉末の見分け方 (白い粉末の区別)	◎ ◎ ◎ ◎	○ ◎ ◎ ◎	○ ○ ○ ○
2 学期	第2章 気体の性質	① 身のまわりの気体の性質 (二酸化炭素と酸素の性質) ② 気体の性質と集め方	◎ ◎	◎ ○	○ ○
	第3章 水溶液の性質	① 物質が水にとけるようす ② 溶解度と再結晶 (水にとけた物質のとり出し)	◎ ◎	○ ◎	○ ○
	第4章 物質の姿と状態変化	① 物質の状態変化 ② 物質の状態変化と体積・質量の変化 (ロウの状態変化と体積・質量の変化) ③ 状態変化が起こるときの温度とその 利用(混合物の分離)	◎ ◎ ◎	○ ◎ ◎	○ ○ ○
	単元3 身のまわりの現象 第1章 光の世界	① 物の見え方 ② 光の反射(反射する光の道筋)	◎ ◎	○ ◎	○ ○

学期	単元名	主な学習活動	評価		
			知	思	態
2 学期	第1章 光の世界	③ 光の屈折(直方体のガラスを通りぬける光の道筋) ④ レンズのはたらき (凸レンズによる像のでき方)	◎ ◎	◎ ◎	○ ○
	第2章 音の世界	① 音の伝わり方 ② 音の大きさや高さ (弦の振動による音の大きさと高さ)	◎ ◎	○ ◎	○ ○
3 学期	第3章 力の世界	① 日常生活のなかの力 ② 力のはかり方 (力の大きさとばねののびの関係) ③ 力の表し方 ④ 力のつり合い (1つの物体にはたらく2つの力)	◎ ◎ ◎ ◎	○ ◎ ○ ◎	○ ○ ○ ○
	単元4 大地の変化 第1章 火をふく大地	① 火山の姿からわかること ② 火山の噴火によってふき出される物 (火山灰をつくる物) ③ 火山の活動と火成岩(火成岩の観察) ④ 火山とともにくらす	◎ ◎ ◎ ◎	○ ◎ ◎ ○	○ ○ ○ ○
	第2章 動き続ける大地	① 地震のゆれの伝わり方 ② 地震が起こるところ ③ 地震に備えるために	◎ ◎ ◎	◎ ○ ○	○ ○ ○
	第3章 地層から読み取る大地の変化	① 地層の成り立ち ② 堆積岩(堆積岩のつくり) ③ 地層や化石からわかること ④ 大地の変動 ⑤ 身近な大地の歴史 (身近な地層で読みとる大地の歴史)	◎ ◎ ◎ ◎ ◎	○ ○ ○ ○ ◎	○ ○ ○ ○ ○

<評価の観点と割合>

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり、振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
30～40%程度	30～40%程度	30～40%程度

<令和7年度に関する特記事項>

- ・学習する単元によって観点ごとの評価の割合に変化がある。

<年間指導計画>

学期	単元名	主な学習活動	評価		
			知	思	態
1 学期	情景を思い浮かべて 音楽の特徴に注目しながら、情景を思い浮かべて聴こう	・歌唱（「校歌」「主人は冷たい土の中に」「夢の世界を」「浜辺の歌」他） ・音符や記号について ・指揮について ・鑑賞（「ジョーズのテーマ」） ・鑑賞（「春 第1楽章」）		◎	◎
			◎		◎
			◎		◎
			◎		◎
2 学期	パートの役割を感じ取って合唱しよう 曲想と音楽の特徴との関わりを感じ取って聴こう 創作をしよう 情景を思い浮かべて 日本の楽器に親しもう	・歌唱（「マイバラード」他） ・鑑賞（「魔王」） ・リズム創作 ・歌唱（日本の歌「赤とんぼ」他） ・器楽（和楽器） ・鑑賞（箏曲「六段の調」）		◎	◎
			◎		◎
			◎	◎	◎
			◎	◎	◎
3 学期	郷土の音楽やアジアの音楽に親しもう 曲の構成や曲想の変化を生かして合唱しよう	・鑑賞（「日本の民謡」「アジア諸民族の音楽」） ・歌唱（「大地讃頌」他）	◎		◎
				◎	◎

<評価の観点と割合>

知識・技能	思考・判断	主体的に学習に取り組む態度
曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身につける。	音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができる。	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていこうとする。
34%程度	33%程度	33%程度

題材により、以下のように観点ごとに割合を変化させて評定を算出する。

<年間指導計画>

学期	題材名	主な学習活動	評価		
			知・技	思・判・表	主
1学期	「色彩の学習」 ・色彩のしくみ	・色のしくみを学ぶ	◎		◎
	「アイディア色相環」	・オリジナル色相環づくり	◎	◎	◎
	「レタリング」 ・さまざまなレタリング	・文字探し（レタリング字典の使い方）	◎	◎	○
	「字体」 ・名前のレタリング	・レタリングの基本練習（レタリングの習得）	◎	◎	○
	「上履きのスケッチ」	・身近なものを水彩画で描く	◎	◎	◎
夏季休業	「鑑賞」 ・私のお気に入り作品	・美術館での作品鑑賞		◎	◎
2学期	「絵文字のデザイン」 （視覚伝達の工夫）	・文字のイメージを絵文字としてデザインする	◎	◎	◎
	「割付模様」	・日本の伝統模様について ・オリジナル割付模様を考案する	◎	◎	○
	「鑑賞」	・夏期オリンピックのメダルについて ・ギリシャ、ローマ時代の彫刻	◎		◎
3学期	「消しゴムはんこでエコバッグ」	・彫刻刀の使い方 ・割付模様を考案する ・はんこを作り、エコバッグにレイアウトする。	◎	◎	◎
	「なりきりゴッホ」	・模写	○	◎	◎
	「コマ撮りアニメ」	・アニメーションの原理を理解する。 ・タブレットで静止画を撮影し、つなげることで動いているようにする。	○	◎	○

<評価の観点と割合>

題材により、以下のように観点ごとに割合を変化させて評定を算出する。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 意図に応じて表現方法を工夫し、道具を適切に扱える。 歴史や生活の中で美術の役割を理解し、知識を身につける。	自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、機能性と美しさとの調和、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を広げたりしている。	美術の創造活動の喜びを味わい楽しく表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 課題に応じて、必要な資料や材料の準備を行えている。 経験を踏まえて、自ら見通しをたて準備や工夫を行う。
30～40%程度	30～40%程度	30～40%程度

<年間指導計画>

学期	単元名	主な学習活動	評価		
			知	思	態
1学期	・体づくり運動 ・陸上競技 ・水泳	・体ほぐしの運動、体の動きを高める運動 ・運動会練習、体力テスト測定 ・短距離走、リレー ・クロール、平泳ぎ	○	◎	◎
			◎	○	◎
			○	○	◎
			◎	◎	◎
2学期	・球技 ネット型 ・球技 ベースボール型 ・陸上競技 ・器械運動 ・球技 ゴール型	・バレーボール、バドミントン、卓球 ・ソフトボール ・走り幅跳びまたは走り高跳び ・マット運動もしくは跳び箱運動 ・バスケットボールまたはハンドボール	◎	◎	◎
			◎	◎	◎
			◎	◎	◎
			◎	◎	◎
			◎	◎	◎
3学期	・陸上競技 ・ダンス ・武道 ・球技 ゴール型 ○球技大会	・長距離走 ・創作ダンス、現代的なリズムのダンス ・柔道 ・サッカー、バスケットボール、ハンドボール ・球技大会種目	◎	◎	◎
			○	◎	◎
			◎	◎	◎
			◎	◎	◎
			○	◎	◎
通年	・体育理論 ・保健	・運動やスポーツの多様性 ・健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康	◎	◎	◎
			◎	◎	◎

<評価の観点と割合>

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の合理的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに実践するための理論について理解しているとともに、運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。また、個人生活における健康・安全について科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動の合理的な実践に自主的に取り組もうとしている。また、健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。
: : の割合とする		

<令和7年度に関する特記事項>

- ・学習する単元によって、観点ごとの評価の割合が異なる。
- ・状況によって、単元を変更する可能性がある。

令和7年度 第1学年

技術科年間指導計画・評価

豊島区立西池袋中学校

<年間指導計画>

学期	単元名	主な学習活動	評価		
			知	思	主
1 学期	・技術分野のガイダンス	・問題の発見、課題の設定 ・製作品の構想、設計 ・製図 ・製作の計画 ・作業手順を考えた製作 ・問題解決の評価、改善・修正	○ ○ ◎ ○ ○ ○	○ ○ ◎ ◎ ◎ ◎	○ ○ ◎ ○ ○ ○
	・D 情報に関する技術	・情報リテラシー	◎	○	◎
2 学期	・A 材料と加工の技術 材料と加工の技術 による問題解決	・問題の発見、課題の設定 ・製作品の構想、設計 ・製図・製作の計画 ・作業手順を考えた製作 ・問題解決の評価、改善・修正	○ ○ ◎ ○ ◎ ○	○ ◎ ○ ◎ ◎ ◎	○ ◎ ○ ○ ◎ ○
	・B 生物育成の技術	・生物育成の技術の原理と仕組み			
3 学期	・A 材料と加工の技術 社会の発展と 材料と加工の技術	・材料と加工の技術の最適化 ・これからの材料と加工の技術	○ ○	○ ◎	○ ○
	・D 情報に関する技術 情報の技術の原理・ 法則と仕組み	・情報の技術とは ・情報のデジタル化 ・情報通信ネットワークの仕組み ・安全に利用するための情報モラル ・安全に利用するための情報セキュリティ ・情報の技術の工夫の読み取り	◎ ○ ○ ◎ ○ ○	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ○	○ ○ ○ ◎ ○ ○

<評価の観点と割合>

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
・材料に関する特徴を理解し、 適した加工方法についての知識 を身につけている。 ・コンピュータを構成する主要 な装置と、基本的な情報処理 の仕組みについての知識を身 に付けている。 ・切断、切削などに必要な工具 や機器を正しい使用方法に基 づいて適切に操作することが できる。	・材料と加工に関する技術、情 報に関する技術の課題を明確 にし、社会的、環境的及び経済 的側面などから比較・検討し ようとするとともに、適切な 解決策を見いだしている。	・技術が人間の生活を向上さ せ、産業の継承と発展に影響 を与えていることに気づき、 技術が果たしている役割に関 心を示している。
34%	33%	33%

※各観点の評価を得点化し、技術・家庭科の割合を50%ずつとして加算する。

<年間指導計画>

学期	単元名	主な学習活動	評価		
			知	思	態
1 学期	1編 未来につながる家庭分野 1 自立と共生を目指そう 2 中学校の家庭分野の学習	小学校家庭科の学習をふり返り、3学年間の学習内容の見通しをもつ。	○	◎	◎
	4編 私たちの住生活 1章 住まいの役割と安全な住まい方 ①住まいの役割 ②住まいと気候風土の関わり ③健康で快適な室内環境 ④家族の住まいを安全・安心に ⑤災害への対策 2章 持続可能な住生活	・住まいの基本的な役割について理解する。 ・日本の伝統的な住まいの特徴を知る。 ・住まいの空間の使い方について理解する。 ・さまざまな生活によって、住まい方の工夫があることを理解する。 ・家庭内の事故の種類と、その原因を知る。 ・幼児や高齢者の安全を考えた住まい方について工夫する。 ・地域の様々な災害に備えて、室内を安全に整備する必要とその方法について理解する。 ・持続可能な社会の実現に向けて、様々な住まいと住まいの工夫があることを知る。	◎	◎	○
2 学期	3編 私たちの衣生活 1章 衣服の選択と手入れ ①衣服の役割 ②私らしさと T.P.O.（着方の工夫） ③日本の衣服の文化 ④衣服の手入れ（補修） ⑤衣服の手入れ（選択と保管） ⑥衣服計画と必要な衣服の選択	・衣服の社会生活上のはたらきがわかる。 ・自分らしい着方を工夫することができる。 ・和服の文化に関心をもち、和服の着方を知る。 ・自分の衣服計画が立てられる。 ・既製服を選ぶポイントがわかる。 ・衣服の状態に応じた手入れの必要性がわかり、適切な手入れができる。 ・取扱い表示の意味を理解し、衣服の素材に適した手入れの方法を選択できる。 ・衣服の素材に合った洗剤を選び、適切な量を使用できる。 ・衣服の傷みの状況に合わせた方法で補修ができる。 ・衣服に合わせた方法でアイロンかけや収納・保管を適切に行うことができる。	◎	◎	○
3 学期	3章 持続可能な衣生活	・資源や環境に配慮した衣生活をおくるために工夫できることを考える。	◎	○	◎

<評価の観点と割合>

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	家族や地域の人々と稼働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
33～35%程度	33～35%程度	33～35%程度

<年間指導計画>

学期	単元名	主な学習活動	評価		
			知	思	態
1 学 期	・学習のポイントを確かめよう	・①文字の「高さ」「間隔」②文を書く際のルール、③辞書の活用方法、④英語と日本語の音の違いの4点が学習のポイントになることを認識する。	○	○	◎
	・Unit 0 Nice to Meet You	・日常のあいさつ表現を知る。 ・I'm (名詞)の文の構造を理解し、運用する。	◎ ◎	○ ◎	○ ◎
	・Sounds and Letters 0	・自分の名前や出身地、年齢、好きなスポーツなどを正しく書く。 ・あいさつや体調を表す表現 I'm (形容詞)を理解し、運用する。 ・自己紹介しあい相手とのコミュニケーションを図る。	○	◎ ◎	◎ ◎
	・Grammar for Communication 0 ・Unit 1 Hello, Everyone!	・アルファベットの大文字と小文字を正しく認識し、それぞれの文字の名前と音、つづりについて知る。 ・英語の語順を認識する。 ・身近なものの英語を知ること、いろいろな単語に親しむ。 ・好きなスポーツやしているスポーツ、好きな食べものについて尋ねたり、応答したりする。 ・I like ~. Do you play ~? — Yes, I do. / No, I don't. I don't play ~ / Are you (名詞)? / I'm not (名詞)の文の構造を理解し、運用する。	◎ ◎		
	・Sounds and Letters 1	・不定冠詞 a/an の使い方や名詞の単数・複数の使い方を理解し、運用する。	◎		◎
	・Unit 2 Our New Teacher	・2字1音や母音字の名前読みを理解し、音からつづりを推測して単語を書く力を身につける。 ・This is ~. He's ~. Is this ~? — Yes, it is. / No, it isn't. Can you ~? — Yes, he can. / No, he can't. の文の構造を理解し、相手に尋ねたり適切に応答したりする。	◎	◎	○
	・Sounds and Letters 2 ・Grammar for Communication 1 ・Unit 3 Our School	・代名詞 he, she, it を理解する。 ・さまざまな母音を認識し、音を推測して読む力を身につける。 ・be 動詞と一般動詞の用法を身につける。 ・what/who/how/when/where do you ~? を用いた文の構造を理解し、疑問に思うことに尋ねたり応答したりする。	◎ ◎ ◎ ○	○ ◎ ◎ ◎	○ ○ ○ ◎
	・Sounds and Letters 3 ・Grammar for Communication 2 ・Unit 4 Friends in New Zealand	・日常よくすることを表す表現を用いて「～曜日に…する」と言う。 ・さまざまな母音を認識し、音を推測して読む力を身につける。 ・疑問詞の用法を用いて、尋ねたり答えたりする。 ・How many / What time / Come [Be, Don't] …の文の構造を理解し、数や時刻、好きなものについてたずねたり、指示や助言（「～して下さい」「～しないで下さい」）をしたりする。	◎ ◎ ○ ◎	◎ ◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎ ◎
	・Sounds and Letters 4 ・Grammar for Communication 3	・文の強勢に気をつけて読む力を身につける。 ・不定冠詞 a/an の使い方や名詞の単数・複数の使い方を理解し、運用する。 ・What do you ~? を用いた文の構造を理解し、相手に尋ねたり適切に応答したりする。	○ ◎ ◎	◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎
	Stage Activity 1 “All about Me” Poster	・自分の好きなことについて伝えるまとまりのある文章を5～6文程度で書く。 ・書いた文章をグループの前でスピーチとして発表し、質問されたことに答えたり、メンバーのスピーチを聞いて質問をする。	○	◎	◎
2 学 期	・Our Summer Vacations	・国内や世界の祭りについて知り、自身の夏の思い出を絵日記に書いて伝え合う。	○	◎	◎
	・Unit 5 My Brother in Hawaii	・一般動詞の3人称単数現在時制（3単現）を含む文の構造を理解する。	◎		
	・Real Life English 1	・自分と相手以外の人やものについて、たずねたり伝えたりする。 ・ウクレレ教室に参加するかを考えるために、テレビのコマーシャルを聞いて、必要な情報を聞き取ったり、その情報を友達に伝えたりする。	◎	○ ◎	◎ ◎
	・Grammar for Communication 4	・三人称単数現在形を用いた文の形・意味・用法を理解する。	◎		
	・Unit 6 A Rakugo Performer from the U.K.	・日本の伝統文化や海外の食文化について理解を深める。 ・主語＋動詞＋目的語（代名詞）の文の構造と人称代名詞（目的格）him/her/us について理解する。 ・人称代名詞（主格）we/you/they を理解する。	◎ ◎ ◎	◎	○

2 学 期	- Real Life English 2 - Grammar for Communication 5 - Unit 7 An Online Tour of the U.K. - Real Life English 3	- 友達の家で身近な人に許可を求めたり、依頼したりする。 - Can I ~? (許可を求める)の文の構造を理解し、運用する。 - ペアワークにおいて、間違うことを恐れず話す。 - 人称代名詞(独立所有格)について理解する。 - 現在進行形の文の構造を理解する。 - 今していることについて説明したり、たずねたりすることができる。 「なんて…でしょう! (How / What a ~)という表現を身につける。 - 道案内に用いられる特有の表現を理解する。相手が目的地へたどり着けるように、地図を見て状況を整理し、適切に道案内のやり取りをしている - 学校など身近な建築物の案内を口頭で行う。	◎	◎	◎
	- Unit 8 Think Globally, Act Locally - Real Life English 4 - Stage Activity 2 - My Hero - Unit 9 Winter Vacation	- したいことや、する必要のあること(I want ~ / try)などについて説明したり、たずねたりする。 - 世界や地域の問題をみんなで共有して解決するために、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、その現状を伝え協力を呼びかけるポスターを書く。 - レストランで希望通りに食事をするできるように、What would you like? / I'd like~を用いた文の構造を理解し、相手に尋ねたり適切に応答したりする。 - ファストフード店の客と店員になってスキットを演じるペアワークにおいて、間違うことを恐れず話す。 - 好きな有名人やあこがれの人がどのような人かを伝えるために、その人についての質問をして答えたり、説明したりする。 - おたがいのことをよりよく知るために、クラスメートと冬休みの出来事について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合ったり、たずねたり答えたりする。 - Did you ~? / What did you ~? / -Yes, I did / No, I didn't.を用いた文の構造を理解し、相手に尋ねたり適切に応答したりする。	◎	◎	◎
3 学 期	- Real Life English 5 - Grammar for Communication 7 - Unit 10 This Year's Memories - Real Life English 6 - Grammar for Communication 8 - Learning Literature in English - Stage Activity 3 - My Favorite Event This Year - Let's Read - Gon, the Fox	- 旅先での様子を伝えるために、絵はがきを送る相手のことを考えて、旅先からの絵はがきを書く。 - 過去の出来事について、一般動詞の過去形を用いて、過去にしたことを伝える技能を身につける。 - 日常の出来事や行事での思い出を残すために、体験したことや感じたことについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて日記を書く。 - Were you ~? / -Yes, I was. / No, I wasn't. There is...を用いた文の構造を理解し、相手に尋ねたり適切に応答したりする。 - 病院で診察してもらうために、相手の体調をたずねたり、自分の体の症状を伝えたりすることを、間違うことを恐れず話す。 - 過去の状態やある時点での動作について、be動詞の過去形や過去進行形を用いて、過去の状態や気持ち、ある時点でしていたことなどについて伝える技能を身につける。 - 物語を楽しんで鑑賞するために、物語の文章構成を意識することで話の概要を捉えたり、話をアレンジしたりする。 - 一年間で思い出に残った出来事について、情報を整理したり感想を考えたりしながら8文程度の原稿を作成し、発表のポイントを意識して話す。 - 書いた文章をグループの前でShow & Tellとして発表し、質問されたことに答える。 - グループのメンバーのスピーチを聞いて質問をする。 - 物語を読み、場面や登場人物の心情の変化を読み取ったり、気持ちをこめて音読したりする。	◎	◎	◎
			◎	◎	◎

<評価の観点と割合>

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 英語の4技能(聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと)について、実際のコミュニケーションにおいて必要な知識、技能を身に付けている。 - 英語の学習を通して、文の構造や語句など、言語の働きや役割などを理解している。	- 具体的で身近な話題について、互いの考えや気持ちなどを英語で適切に伝えあっている。 - 聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現している。	- 主体的に英語を用いて、自分の意見や考えを話したり書いたりして表現しようとしている。 - 知識や技能を獲得し、思考力・判断力・表現力を身に付けるために、粘り強く取り組んでいる。 - 獲得した知識や技能を、場面に応じて活用し、授業に取り組んでいる。
40%程度	30%程度	30%程度

<令和7年度に関する特記事項>

- 学習する単位によって観点ごとの評価の割合に変化がある。